

ISTA

会誌 第3卷第1号



平成23年3月31日

特定非営利活動法人
科学芸術学際研究所 ISTA

表紙の画像

江戸末期あるいは明治時代に作られたと思われる結び目の型の一部（現物は ISTA 所蔵）、左は亀を表した亀結び、右は6回対称を持つ亀結び、および5回対称を持つ八重菊結び、いずれも紐の両端をつないで閉じれば完全な対称図形となる。結び目は3次元の一筆書きの模様でもあり、理論的には位相幾何学の多様体の中で研究が行われている。

左の蓑亀は甲羅に藻が生えた状態で、長生きした象徴として祝儀の装飾図案に登場する。南方熊楠はこの蓑亀を実際に作ったということである。

目 次

アートギャラリー		口絵
サイエンスとアートの交流 (II)	高木 隆司	1
生き物の「かたちからくり」を組み立てる	北岡 裕子	6
植物の学名を知って、植物に親しむ (I)	田中 學	11
埼玉県NPOチャレンジサポート事業 「科学おもちゃの開発」実施報告	高木 隆司	16
● 平成 21 年度活動アルバム		20
● 会員のひろば		22
● 編集後記		24
会誌投稿の手引		25

